


# 龍谷大学図書館蔵『保元物語』近世初期写本 翻刻（二）

広島大学日本語史研究会

本稿は、龍谷大学図書館貴重書庫に蔵される『保元物語』（写字台913.39/3-1）の翻刻（二）である。翻刻（一）は、「論叢 国語教育学」第19号（令和五年七月刊）に公表した。本書の書誌・略解説は、それを御覧頂きたい。

翻刻のご許可を頂いた龍谷大学図書館に対し、心中より御礼申し上げます。  
（以上、佐々木 勇 記）

## 凡例

- 一、本翻刻は、龍谷大学図書館蔵『保元物語』（写字台913.39/3-1）を、原本の行取りで、現行の字体に改めたものである。仮名遣いも、原本のままとした。
- 一、促音・舌内入声音に使用される  は、「ツ」で示した。
- 一、虫損等で欠損した文字を残画から推読した場合は、「」に入れた。

- 一、本翻刻は、石田芽衣・館林佑樹・研裕太・藤井日羽・源さちあ・元山美乃里・楊暁敏・堀邊隆晴・宮崎翔太・荒尾佳澄・高藤友菜・長谷川木香・森本泉美で作成した。
- 一、なお、翻刻データの入力は、館林佑樹・研裕太・藤井日羽・源さちあ・元山美乃里・楊暁敏・堀邊隆晴・宮崎翔太・荒尾佳澄が行い、佐々木勇が確認・修正した。

（二十四才）

- 1 ける八日くぎやうせんぎあり來ききた十一日には左大臣殿
- 2 をるざいし奉るへきよしをのくくため申されけ
- 3 り是はむほんの聞えふだんあるによつて也又東三
- 4 条には秘法をおこなひ朝家をしゆそし奉るも
- 5 のありと聞えければ下野守義朝しのがねよしもとに仰て是をめし
- 6 とらるよしともゆきむかツて見れば四方の門を
- 7 さしてたゞけ共こたへずひかしの小門をうちや
- 8 ふりてみたれ入て見れば人もなしあなくりも

9 とむる程につのふりはやふさのまつをとをつ

(二十四ウ)

- 1 うあり是は三井寺法師さかみのあじやりてうぞ
- 2 むといふもの也内裏よりめしありまいれといへとも
- 3 返事もせずつはもの二人よつて左右の手をとり
- 4 ひげともひちをかゝめてのへず力士などのごとし
- 5 さらは法にまかせよとてつはもの五六人よりてう
- 6 ちふせおびをもつていましめ所持の本尊左符「ママ」
- 7 の書状などあひそへ參ぬ藏人治部大輔雅頼
- 8 一藤の判官俊成に仰てめしたつねらる関白殿
- 9 (二十五才)

- 1 と左大臣殿の御中和平の義をいのり申也其外
- 2 は別の子細なしと申其法鳥瑟沙摩金剛童子
- 3 聖天供也されとも左符「ママ」の書状顯然なるうへ澄
- 4 尊か陳状のびずてうぞんはきんくせられぬそれ
- 5 よりぞ新院と左大臣殿御謀叛の事はあらは
- 6 れにけり平馬助忠正むほんの聞えあるにより
- 7 依頼をもつてめされけれどもとかうろんじてま
- 8 いらす今日は鳥羽の田中殿には故院の初七日
- 9 にあたらせ給へは御仏事とりをこなはれけ

(二十五ウ)

- 1 れとも新院出御もましまさす京へ御出有へき
- 2 と聞えければされはこそとて人とあやしみをな

3 すき京大夫範仲申されけるは當時は御中院にて候

- 4 京の御所にましまし候とも今は是へこそ御幸な
- 5 り候へきたまへ候御所にまし候京へ御出候は
- 6 人あやしみ申ぬとおほえ候いかへ有へく候らんと
- 7 申されけれ共かなふましき御氣色なればのり
- 8 ながちからおよはて内大臣実能公「ママ」の御宿所にま
- 9 いらて此やうをなげき申されければさねよし

(二十六才)

- 1 大におどろきてされはいかなる御くわたてぞやた
- 2 今事いきて御後悔あるへき物を當今と申
- 3 は御弟にてましませとも御くらゐをつぎ國をおさ
- 4 めさせ給事私の御たくみにあらず天照大神
- 5 正八幡宮の御はからひなりされは弟にくらゐ
- 6 をうばれおいに世をとらるゝ先蹤もとむる
- 7 にあらずされともむほんおこす事や候重仁親
- 8 王の御事御心くるしく思まいらせさせ給はは
- 9 神三寶にも御祈禱あらん事は御はからひた

(二十六ウ)

- 1 るへし我御身は御出家なとあてかたへんにし
- 2 つかなるていにてわたらせ給ははいと御心にき
- 3 御事にてこそ候はめゆめへ此御くわたたあるへか
- 4 らすなをへそをもん候へしと仰られければ
- 5 範仲又かへり參て此やうを申されければ新院
- 6 おほせられるは是にありては一定事に

- 7 あふへきよしねうぼう兵衛佐がつけしらする
  - 8 あひたそのなんをのがれんとてなりと仰られ
  - 9 ければちからおよはす九日の夜のやはんばかり
- (二十七才)

- 1 に田中殿を出させ給て前の齋院白川の御
  - 2 所へ御幸なる御ともにはさ 京大夫のりなかう
  - 3 まのかみ定清山しろのぜんじしげつなさ衛門
  - 4 大夫家弘此人と参りけり六条判官為義は
  - 5 せけんのやうをうかゝひていつかたへもまいらす
  - 6 ひきこもりてぞいたりける新院の御所よりさ
  - 7 京大夫のりなかを御つかひにてためよしがしゆく
  - 8 所へつかはして御方にまいるへき由仰くたされ
  - 9 ければためよし申けるはかたのごとくみやこの
- (二十七ウ)
- 1 守護にて候へともいまだかつせんのれうけん候は
  - 2 才先年伯父にて候美濃守義綱あふみのかうか
  - 3 山にこもりて候しとき宣旨を下されて候し
  - 4 間おりふしせい候はさりしかともまかりむかひて
  - 5 候しに郎従等をちうせ候ぬ子息じがいし其
  - 6 身しゆツけて候ひしをいけとりにしてま
  - 7 いらせて候しと一とせ奈良の大衆山をせめんと
  - 8 てまかりのほり候し時せんじを下されて候し
  - 9 あひたこはた山にはせむかツてすまん人の大衆を
- (二十八才)

- 1 おツ返して候是二かとはかならずいくさまては候は
  - 2 ねども事にあひたる事はより外は候はず
  - 3 國にいらうせき出来候へは郎従等をつかはし
  - 4 候へはべちのしさいも候はずちやくしにて候しも
  - 5 つけのかみよしともこそ坂東そたちのものにて候
  - 6 あひたかつせんにもてうれんものにて候へとも
  - 7 それは故院の御遺戒にて内裏へ参候ぬ其
  - 8 外子ともあまた候へ共一方の御大事仰つけられ
  - 9 候ぬへき者も候はず是にためともくわんじやと申
- (二十八ウ)

- 1 候あらものこそ候か此程鎮西よりまかりのほりて
  - 2 候きやつはしかるへきゆみとりとむまれつきて候
  - 3 事はゆん手のかいなめてのかいなよりも四すんな
  - 4 かく候間矢づかをひく事人にすくれて候せいもこ
  - 5 との外大に身もしたゝかに候弓とつてもつたな
  - 6 からぬやつにて候かつせんもてうれんの者にて候
  - 7 かれをまいらせ候はやとそ申けるのりなか大方
  - 8 此やうをこそ披露申候はめたゝし下つけのかみ内
  - 9 裏へ参候とても御へん仙洞へまいられん事な
- (二十九才)
- 1 にかはくるしかるへきおやは親こは子にてこそ候へとの
  - 2 たまひければためよしかさねて申けるやうそう
  - 3 して物うき事ともに候年來將軍の宣旨
  - 4 をのそみ申候しか共御ゆるされ候はずさ候は祖父親

- 5 義が住國にて候へは伊与國を給らんと申候しかと
- 6 も地下のものゝ拜任の例なしとて是又御ゆるし
- 7 候はず又義家があとにて候へは陸奥國を給らんと申
- 8 候しかはみちのくにはためよしとために不吉の
- 9 國也とて御ゆるし候はず今まで白髪をいたゞき  
(二十九ウ)
- 1 てまかりすき候と申も此ほんいをたつせはやと
- 2 存するゆへにて候へは今はいつ方さまにつゐても
- 3 ほうこうつかまつるへしともおほえ候はず此程心に
- 4 かゝる夢想を見て候子細は家につたはりたるつ
- 5 きかず日かずかんだがうぶぎぬたてなしうす
- 6 がねひさまろ八りうをもたかなと申候八兩のよ
- 7 ろひが風にふかれて四方へちると見て候間為義
- 8 はゆみやのみやうかつきぬるやらん存「候」時にいつかた
- 9 へもまいらしとこそ存候へと申ければ範仲是又心へ  
(三十オ)
- 1 られすさやうの所望の候はんにつけても御方
- 2 に参りてちうをいたされ候はゝたとひけいしやう
- 3 のくらゐにいたらんと申され候ともへちに子細あ
- 4 るへしとも存候はずまして此所望におおては御
- 5 心やすかるへしことに都の守護にておはしませ候
- 6 人の主上と、皇の御國あらそひにいつ方へもまいらす
- 7 してよそにて見聞せられん事いかゝ有へく候
- 8 らん御へん程のゆみとりの夢物かたりおめた

- 9 る事にて候披露せんにつゐてもはゝかり候  
(三十ウ)
- 1 院宣の御返事をぬから申されん事いかゝあ
- 2 るへく候やらんとやう／＼にこしらへ仰られけれ
- 3 は為義大略半分につゐてりやうじやう申てげり
- 4 此上はちからおよはずとて四郎左衛門尉頼方かものす
- 5 け頼仲六郎為宗七郎為成人郎ためとも九郎為仲
- 6 以上六人子共をあひぐし新院の御方へ参りけり御
- 7 感のあまりにあふみの國いねの庄とみのゝ國青柳
- 8 の庄二ヶ所を給て上北面に候へきよし能登守宗
- 9 長を以て仰くたさるさ大臣殿は宇治におはしまし  
(三十一オ)
- 1 けるが新院すでに白川殿へ御幸なりぬと聞えけ
- 2 れは式部大夫盛教を御使にて御幸は一定か見て
- 3 参るとて参らせらる新院盛教を御前に召れてちき
- 4 に御問答有けり盛教かへり参りて御幸は一定
- 5 にて候と申ければ更ば参らんとて御身をやつ
- 6 してあやしけなるはりこしにめしてすぐにした
- 7 いごぢよりまいらせ給左大臣殿御車にはかままんきう
- 8 教信山城ぜんじ重綱二人をのせてさ大臣殿仙洞
- 9 へまいらせ給ていにて六原のまへをやりとをすつ  
(三十一ウ)
- 1 はもの共あやしみて御くるまをとゝめて内裏へつ
- 2 け申されければ少納言入道御前に候けるか是を

3 こゝろへてはや左大臣殿の御車にはよもあらじたゝ  
4 とをせとてとをしけりむかしかんのかうそ項羽と  
5 かツせんしける時高祖きしんといふつはものをかうそ  
6 の車にのせてかうそのとをる躰にて陣のまへを  
7 やりとをし我身はひそかににげたはかりぬこうう  
8 は高祖の車そと心へて車をとゝめて見るにかうそ  
9 にはあらず紀信といふつはもの也此きしんは無  
(三十二才)

1 双のつはもの也こうう我にしたかへいのちをたす  
2 けんといふきしん忠臣は二君につかへず何ぞ  
3 したかはんといふさらはちからおよはずとてきし  
4 むをころしてげり今のはかりことは此心なるへし  
5 とぞ申けるたゝし教信重綱はきしんが心には  
6 にずやとありけり二人のものとも白川殿へ參  
7 つきてあなをそろしや鬼のうちかへになり  
8 て候つるそやとてわなゝく／＼車よりをりに  
9 けり又新院より武者所親弘をもつて内裏  
(三十二ウ)

1 へ御書あり御返事ありかさねて御書をしら  
2 今度は御返事なし何事なるやと人は是をしら  
3 す又内裏より左大将公教卿藤幸相光頼卿二人  
4 御つかひにて美福門院の御所へまいりて左中将惟  
5 方をもて御遺誠を申出さる内裏と新院と御中  
6 あしかるへき御事は故法皇かねて思召まうけた

7 りし御事なれば内裏へ參るへきつはものゝ交名を  
8 御震(マ)筆にあそばしをかる義朝よし康頼政  
9 のふかね実俊以上五人也ことさらよしともは去六  
(三十三才)

1 月の比より大裏を守護し奉るあきのかみ清  
2 盛多勢のものもツとも此人数に入へかりしか  
3 故刑部卿盛しけひと親王をやうくんにし奉りし  
4 あひたきよもりは御めの子たるにやて今度の  
5 人数にはもれたりけるを美福門院より御つか  
6 ひをつかはして故院の御ゆいごんなり内裏へまい  
7 れと仰られければ參りてげり職事のものよ  
8 ほしにしたかツて諸衛官人兵杖を帯して陣  
9 頭に候けり北殿の御所はぶんないひろければ  
(三十三ウ)

1 よろしかりなんとて入らせ給ひぬつはものとも門  
2 門をしゆごし奉り大炊御門一面には二の門ありひか  
3 しの門をば平馬助忠正多田蔵人頼兼承てかためけ  
4 り其せい百騎にし門をば鎮西人郎ためとも奉て  
5 守護しけり其せい七十騎にしをもては河原也  
6 六条判官為義父子うけたまはつてかためけり  
7 其せい百五十騎是はたせいなるへかりしがよしとも  
8 が内裏へ參りしかはそれにあひしたかツてまいり  
9 ければよせいなきがごとし北面は春日かすへ左衛  
(三十四才)

1 門大夫家弘ならひに子息舎弟しゆごしけりわ  
 2 き／＼の門をはつき／＼のつはもの奉て守護しけ  
 3 り新院の御方のつはもの一千余騎と聞えしなま  
 4 しいに御所はひろしはう／＼へわかちつかはしたり  
 5 ければ人あり共見えさりけり新院さ大臣殿  
 6 すでによるひをめえされければ左京大夫のりな  
 7 か申されけるは當時はあつき比にて候めされすとも候  
 8 はんやと申されければ御よろひをはぬかせ給ひけ  
 9 り其のち六条判官をめえされてかつせんの次  
 (三十四ウ)  
 1 第はからひ申せと仰られければためよしさき  
 2 たつて申候ぬかつせんのでうれん。仕候はすため  
 3 ともくわんじやをめえされてたつねきこしめさるへき  
 4 とて我身はまかり出ぬためよし其日はちやうけ  
 5 むのひたゝれにくろいとおとしのよろひをきた  
 6 りけりしらがかすほに見えてあはれぶるつは  
 7 ものやとぞ見えしためともが事はかねて聞し石  
 8 つるにすこしもたかはすまことにゆゝしけなり生  
 9 年十八歳其たけ七尺あまり也されはふつうのも  
 (三十五才)  
 1 のには今二尺あまりはたかゝりけりゆん手のかい  
 2 なめてのかいなより四寸なかゝりければ矢つか引事  
 3 十五東弓のほこは八尺五寸されはながもちのあふこ  
 4 にいとをとらすはる時は三人たはめて一人つるをか

5 く矢は三年竹のきはめてしやうつよくかたきを  
 6 あらはゝよはかりなんとてふしの上をすこしおしこ  
 7 そげて我手におしにきりて十五そくにきりた  
 8 り羽はとびからすにはとりの羽なんとなあつ  
 9 めてふぢまきにまきつたりしりはたてはり  
 (三十五ウ)  
 1 とりのしたにもあらずふつうのそやしりは物にあ  
 2 たる時まちがこらへずわれける間番匠のみなど  
 3 のやうにのゝ上にすこしすりきせてあつさ五分  
 4 ひろさ一寸なかさ八寸はかりにうたせてきはめて  
 5 よきかねをきたひすましてさきほそにつくら  
 6 せたり何にもあたらはつととをれとそこしら  
 7 へたる上矢のかぶらはほうの木をもてなかさ七八寸  
 8 はかりにくらせたりかたな目のさたにもおよは  
 9 す八かくにをしけつりて目九さしたりかぶらの  
 (三十六才)  
 1 かりまたは手さきは六寸わたり六寸なひは  
 2 一寸むねをは四むねにたてゝはをつけたれ  
 3 はこなぎなたをうちかへたるがごとし羽にはは  
 4 とりここのしもふりなどをてはいたり廿  
 5 四さしたる矢のうへに此矢を四すちさし  
 6 たり見る人目をおとるかす弓ぜいのいかめし  
 7 きのみならず馬の上かちたち矢ところなる  
 8 物はさけはりなれ共はつさす空をとぶとり

9 地をはしるものめをかけたるにいとらすといふ  
(三十六ウ)

1 事なしされはゆみのつよく手のきゝたるこ  
2 とは将門純友にも猶まさりとそ申ける其日  
3 はかちのひたゝれに駕の丸を三二ぬひたるに  
4 からあやのくろぎをひろくたゝみてをどしたる  
5 大あらめのよろひにしゝのまろのすそかな物う  
6 ちたるに太刀はこくしつたるかねりつばに  
7 まのかわのしんざや入たりゆるき出たる氣しき  
8 人目をおどろかす新院もみすををしはりて  
9 御らんあて龍顔すこぶる多つぼに入せ給けり  
(三十七才)

1 左大臣殿は大ゆかに候はせ給ひ御覽しあはれ  
2 大将軍や一人當千とも是をこそいはんすれ  
3 とて興に入せ給けりためともは父がまかり出た  
4 るあとにிரりかはりて候氣しきあたりをは  
5 らてそ見えし左大臣殿ためともかつせんの次  
6 第はからひ申せとおほせられければためとも  
7 さん候ようせうより九國に居住つかまつり候て大  
8 小事のいくさにあひ候事十度にあまり廿  
9 度にもおよぶらんあるひはてきのためにをとき  
(三十七ウ)

1 れあるひはてきをしえたくる事も候いくさは  
2 かツにのるにはしかすそれにとつても夜うちに

3 すきたる事候はすいまた天のあけざらんさき  
4 に内裏たかまつ殿へをしよせて三方に火をか  
5 けて一方せむるものならば火をのかれんものは  
6 矢をのかるへからすあにゝて候しもつけのかみなと  
7 こそふせき候はんすらめたゝ一矢にいとをし候なん  
8 ず清盛なんとへるゝ矢なに事の候へき行  
9 幸他所へなり候はゝためとも御こしに矢をいつけ  
(三十八才)

1 奉るへしためともかはなつ矢にはあるへからす八  
2 幡大ぼさツの御矢なるへし其ゆへは君御あにゝ  
3 てわたらせ給ふよしともがちゝためよし也かたゝ  
4 上下にて候いかてか天神地類も御ゆるされなく  
5 て候へき駕輿丁ともいのちををしみて御こしを  
6 捨奉らは行幸を此御所へなし奉らん事たゝい  
7 まに候と手をはなちてそ申ける左大臣殿此で  
8 うあらぎ也夜うちなんといふ事は十騎廿騎の  
9 わたくし事也さすかに主上と皇の國あらそ  
(三十八ウ)

1 ひに夜うちは無なる事そこんとのかつせんにには  
2 源平りやうかのつはものとも思ひゝに引わかれた  
3 り用意おるそかにてはかなふへからす南都の大衆  
4 信実源実吉野とツ河のさし矢三町とを矢  
5 八丁の者ともこよ富家殿の見參に入て明  
6 日うの時には白河殿へまいるへきよしきこしめし

- 7 これらをまちつけてかつせんはつかまつれみやう
  - 8 ちに院司の公卿殿上人をめさんに參らさらんも
  - 9 のをは死罪におこなはるへし兩三人がくびをはぬ
- (三十九才)

- 1 る物ならはのこりはなにかまいらさるへき夜の
- 2 程は御所中よくしゆごし奉れと仰られ
- 3 けるためとも御返事をは申さてしんじちげ
- 4 むじツをまたるゝはせいをそへて御覽せんため
- 5 か下つけのかみ合戦にはてうれんのもの也かた
- 6 きにうはてをうたれんとはよもおもはし夜う
- 7 ちもせんとぞはからふ覽あすまでのひはこ
- 8 そさし矢もとを矢も御用ならめたゝ今てきに
- 9 うは手をうたれん御方のもの共があはてさ

(三十九ウ)

- 1 はかんする事のかなしきよとたからかにつぶやき
- 2 てぞ出にけるぢたい此為朝はようせうよりして
- 3 以外のあらもの也兄どもにも所をゝかずさんゝ
- 4 にふるまひければためよしももてあつかひて此
- 5 もの京都に置てはあしかりなんとてちんぜい
- 6 へくたす豊後國に居住しあその平四郎忠景と
- 7 いふものがむこになりてあたりけり九國をした
- 8 かへんとすれ共誰かさうなくもしたかふへき菊
- 9 地原田なんといふものとも城柳をかまへてふせ

(四十才)

- 1 くだいへ共ためともてきをしたかへしろをゝとす
- 2 事人にすぐれたりし間をしよせゝさんゝに
- 3 せめければ九國大略半分にすきうちなひかす
- 4 君よりも給らぬ惣追捕使と号して九國を
- 5 張行くにのらうぜきなめならすしかる間ちゝ
- 6 ためよしに仰てめされけりためともか身にあ
- 7 てゝもめしあれとも一切まいらすさらはちゝた
- 8 めよしを闕官せよとて檢非違使を闕官せられ
- 9 て前左衛門尉にてそ候けるためとも此事つ

(四十ウ)

- 1 たへ聞てとがあらはためともをこそざいくわに
  - 2 もおこなはれめとがおはせぬ判官殿のけつ
  - 3 くわんせられ給ひたんなる事こそあさましけ
  - 4 れさらは參てちんし申さんとて京へのほ
  - 5 らんとすれば九國の住人等我をとらしと出立
  - 6 てともせんとすればためとも身のとかをち
  - 7 むし申さんとてのほる大勢はあしかりなん讒
  - 8 奏もあらんすらん心さしあらん人とはあとに
  - 9 ものほり給へとてかげのことくにつきそふ郎
- (四十一才)
- 1 等どもをあひぐしてのほりけり内徳はし
  - 2 らね共らうどう共にはゆゝしけなる名共
  - 3 を付たりけりめと矢崎拂の須藤九郎
  - 4 家季山ほうし還俗したりしあきすゑの西



5 次別當とめやの源大左中次大矢新三郎三  
町つぶての紀平次大夫打手城八手執の余次  
6 三郎たかまの三郎同四郎此等をはしめとして  
7 以上五十余騎とぞ聞えける京中には今夜か  
8 つせんあるへかんなりいかなる世にかならん  
9 (四十一ウ)

1 とぞなげきあひける鳥羽殿には故院の旧  
2 臣たち左大将公教卿藤宰相光頼卿左少弁  
3 顯時朝臣此人との申されける去八日より彗星  
4 東方に出ていまだかくれず將軍が塚しきり  
5 にめいどうす天変地ようせんものさす所  
6 そのつゝしみからす禁中にも仙洞にも  
7 つもの共まいりあつまる也仙洞には左大臣殿  
8 事をこなひにて人とめさんにまいらざらんを  
9 は死罪にをこなはんとはからひ給ふ也鎮西八郎  
(四十二才)

1 ためとも大裏たかまつ殿には火をかけんと申  
2 されければ君も臣もあんおんにやなかるへし  
3 古院崩御の後わつかに十日の中ぞかし主  
4 上も上皇も御心を一にして御追善の外は他事  
5 やわたらせ給へきそれまでこそなからめたちま  
6 ちかゝる事の出来ぬるあさましさよ伊勢大神  
7 宮は百王をまほらんといふ御ちかひぶかんとこそ  
8 うけたまはり候に今廿六代をのこして當今の

9 御代に王法のつきぬる事のかなしさよつら〜  
(四十二ウ)

1 事の心をあんするに我朝は是神國也御裳濯  
2 川のなかれ久しくして七十四代のあまつひつき  
3 もたゆる事なしむかし崇神天皇御宇あま  
4 つ屋しる國つやしるをさためをき給ひしよ  
5 りこのかた神わさ事しけくしてくにのいとなみ  
6 たゝ此事にありよるひるのまもりなしよ  
7 たり給ふへき推古天皇御宇上宮太子代に出て  
8 守屋かじやけんたいらけ四天王寺をこんりうし  
9 て勝鬘法花の二經を講じ給しより此かた仏  
(四十三才)

1 法はんじやうして王法をまもる事としひさし行  
2 基井は泉州大鳥郡にたゝして寺を四十九ヶ  
3 所にたて國分寺を六十余州にわから給ひ傳教大  
4 師は江州比叡山のみねをしめて一乗の法雨を  
5 普天にあふき弘法大師は紀劬高野山のみね  
6 をしめて三密の法水四海にそゝきそれより  
7 このかた南都七大寺北京六勝寺をはしめとして  
8 ちかくは幾内とをくは七道にいたるまで神社仏寺  
9 いらかをならへのきをきしれり是すなはち佛  
(四十三ウ)

1 法興隆鎮護國家のはかりことなるへし中に  
2 も白川鳥羽兩院はもつはら神祇をうやまひ

- 3 仏法にきしましすされは國郡半は神領たり
- 4 田園こと／＼く仏性によすしかれば木のもと
- 5 かやのもとといつれのところか和光迹「マ」跡の居にあ
- 6 らさる東西南北いつれの國か仏道修行の地にあ
- 7 らさるかの十六の大國にもすぎ五百の中國にも
- 8 こえたりされは神明三宝も我くにをまもり
- 9 給就中左青龍右白虎前朱雀後玄武四神

(四十四才)

- 1 相應の地なりとて桓武天皇延暦十三年十月
  - 2 廿一日ながをかの平安城へうツされて世をみたり
  - 3 給ひしか共此京はみたれずそのち帝王廿五代三百四十七年の春秋を送りされは承平
  - 5 に将門天慶に純友東西に亂逆をおこし天岳に貞任兄弟むほんをくはたてあるひは八ヶ國をう
  - 7 つとて八年までせめたゝかひあるひは奥州をう
  - 8 うつとつて十二年までふせぎしか共みなこれへ
  - 9 むどのさはき也一度もみやこのわつらひにあらす
- (四十四ウ)
- 1 誰人かたやすく此京をはほろぼすへき南には
  - 2 八幡大ぼさツおとこ山にあとをたれておはし
  - 3 ます北にはかも大みやう神ほんぜいをまもり給
  - 4 ふ鬼門の方にあたては日吉山王おわします大う
  - 5 ち山ちかくは又天滿天神あらはれ給ふそのほか
  - 6 まつのをひらのいなりぎおんにいたるまでひんは

- 7 むのれいもおこたらすふんゆのかけもさかん也たと
  - 8 ひ逆臣天下をみたるといふ共いかてか鬼神の御た
  - 9 すけなかるへきとをの／＼たのもしくぞ思はれ
- (四十五才)

- 1 ける内裏たかまつ殿には主上南殿に出御あ
  - 2 てくぎやうせんぎ有けりせうなこん入道信西
  - 3 末座に候す袖ちいさなる淨衣にこぎつねと
  - 4 いふ太刀をぞはいたりけるそも／＼出家の仁
  - 5 公卿の列につらなる事れいまれなりむかし
  - 6 しやうとく天皇の御宇弓削道鏡とて聞えし
  - 7 僧如意輪の法成就のゆへに御門のてうあひは
  - 8 なはたくして大政大臣をさつけられて禁
  - 9 中にしこうすそれは一こうなれば申におよはす
- (四十五ウ)
- 1 今日のぎしきめつらしくそ見えしされ共此
  - 2 ぜんもんは諸道をけんかくして諸事にくらから
  - 3 す又文武のさい兼たりし間此人となくは難儀
  - 4 の次第たりしかはちからおよはすよしとはあか
  - 5 ぢのにしきのひたゝれにわいだてにこぐそくつ
  - 6 まやかにして庭上にひぎまうきてぞ候ける信西
  - 7 おほせを承てはいくなんぢしんぶぎやうだいをす
  - 8 てゝ御方に參候の条かんじおほしめすところ
  - 9 なり大將軍におゐては仰つけられあひかま
- (四十六才)

- 1 へてちうせつをいたす物ならば日ころの所望昇殿しよぼうしやうでんをいてはしさいあるへからさるよし仰下さる
- 2 ところ也此むねそんちつかまつり候へと申けるよしともかしこまつて申けるは家に申つたへて
- 3 候かツせんばにあひむかツて死はそんちのうち
- 4 生は存そんちのほか也かツは故院こいんの御ゆいかい也かツはせん
- 5 しにおうじ奉てくめいをかろくして戰場せんぢやうに
- 6 かはねをさらさん事たゝ今に候いきてふたゝひ
- 7 ぢんとうに歸參候はゝこそこのえいぐわを期し

(四十六ウ)

- 1 候はめせんずるところたゝ今昇殿しやうでんをゆるされ
  - 2 候はゝ日ころのほんいをさんじていさみをふくてか
  - 3 つせんのちうをいたすへく候とてきざはしのみ
  - 4 はへあゆみよる其とき信西しんせい難治なんぢ事かと思て
  - 5 御所へ申けるはよしともが先祖せんぞよりよし義家よしけ
  - 6 しようでんゆるさるといへ共ちゝ為義たゝ今まで
  - 7 地下ちかの檢非違使也その子こにて昇殿しやうでんゆるされん
  - 8 事いかゝかるへく候らんと申ければ乱世らんせいは武を
  - 9 もておさむといふ事あり世既よすでみたりよし
- (四十七オ)
- 1 ともを抽賞ちゆうぢやうせずはあるべからずとせんしを下さ
  - 2 れけるうへはちからおよはす義朝よしともひやうぢやうをた
  - 3 いしてきざはしをよぢのほるしようでんはこれ
  - 4 象外ざうげのえらひ也俗骨ぞくこつもて蓬萊ほうらいの雲をふ

- 5 むへからす尚書じやうしよは又天下てんかののそみなり庸才ようさいかと
- 6 も今日けふはしめてよしともとみやうじを殿上てんじやうの御
- 7 札ふだにかゝれるこそ六孫王むくそんわうよりつたはれるゆみや
- 8 のめんぼくとは見えよしともかツせんの次第しだい
- 9 はからひ申せと仰られければさん候家きゑに申

(四十七ウ)

- 1 をきたる事共おほふ候へともいくさはたゝかツに
  - 2 のるにはしかすそれにとても夜うちにつきた
  - 3 る事候はすいまだ天のあけざらんさきに白川殿しろがわ
  - 4 へをしよせ候はゝ一のはかりことにて候就中きやくちゆうに左符さふ「マヤ」
  - 5 の權威けんいをもてなかんとの大衆たいしゆしんじツけんじちよ
  - 6 しのとツ河かのさし矢三町やさんちやうとを矢八町やぱちちやうのもの共
  - 7 參候也これらをさきとして舍弟しやていにて候さめとも
  - 8 くわんじやをしよせ候なほよき御大事ごだいじに候くろか
  - 9 ねをのへて楯たてのおもてにふせ候共ためともくわん
- (四十八オ)
- (以下、つづく。)

(広島大学日本語史研究会)